



# がっこう 学校だより

がっこう  
7月号



**Challenge  
Dream  
Interaction**

れいわがんねん がつ か  
令和元年6月28日  
よこはましりつかみいだしょうがっこう  
横浜市立上飯田小学校

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamiida/>



## りょう と 涼を取る

こうちょう よこやまよしあき  
校長 横山美明

エアコンがなかった頃の日本では、夏の暑さをしのぐために五感を使って涼を取っていました。

行水や井戸水、井草、うちわ、扇子といったもの冷たさや涼しさを直接肌で感じるもの、かき氷やスイカ、ところてん、そうめんなど、食べて「涼」を取るものはもちろんのこと、目で見る「涼」として金魚鉢を置いたり、飲み物や食べ物をガラスの器に入れたりしてきました。また、風鈴の音や金魚売りの口上、鈴虫やヒグラシの鳴き声、かき氷を削る音、川のせせらぎ、水琴窟など、音にも涼しさを感じました。さらには、蚊取り線香のにおいや磯の香りなどのにおいも「涼」の記憶として残っている人もいられるかもしれません。こうした五感を使った「涼」の中でも視覚・聴覚・嗅覚による「涼」は、生活環境や生活経験によるものが大きいと思います。フィリピン出身のAETのエミリー先生とIUIのロデリオ先生に風鈴の音についてうかがったところ、お二人とも風鈴は知っているものの、その音には特に涼しさは感じないとおっしゃっていました。ロデリオ先生は「風鈴は知っているので、風鈴の音からは風を想像する。でも自分にとっての風による涼しさは竹藪の竹がサーッと揺れる音です。」と話してくれました。やはり、育った環境によって涼しさを感じる音は違うのだと分かりました。私自身にも涼しさと結びついている音や景色があります。それは、ラジオ体操の時の公園の草についた朝露、友達と遊んで帰る時に聞いたヒグラシの鳴き声、花火を終えた後に聞こえてきた虫の声など、どれも心地よく懐かしい思い出です。保護者・地域の皆様にも子どもの頃の「涼」を感じた音や景色、経験があることと思います。

さて、今の上小の子ども達が大人になった時に感じる子ども時代の「涼」はどんなものになるのでしょうか。水泳学習が始まりプールから明るく元気な声が聞こえてきます。子ども達にとってプールは体力向上の場であるとともに、暑い夏を乗り切るための最高の「涼」なのかもしれません。

もうすぐ夏休みに入ります。エアコンの涼しさだけではなく、目で見たり音で聞いたりする「涼」を体感する機会ももってほしいと思います。

とは言っても例年30度を超える暑い日が続いており、熱中症も心配されます。昨年の猛暑を受け、教育委員会事務局において「横浜市立学校熱中症対策ガイドライン」【試行版】\*が策定されました。本校でもこれを参考にして子どもの熱中症予防に努めていきたいと思っております。

